

## 間接受身文における事象表現の統語構造とその解釈

星 英仁

同志社大学

*hhoshi@mail.doshisha.ac.jp*

本発表では中国語・日本語において観察される、いわゆる「間接受身文」を取り上げ、受身形態素（「被」と「られ」）に埋め込まれた事象表現がどのような統語構造を持ち、どのように解釈され、中日間の類似点と相違点をどのように統一的に捉えることができるのか明らかにすることを目的とする。間接受身文の認可において、中国語と日本語には以下のような相違点と類似点が存在する。

(1) 自動詞の間接受身文：日本語は可、中国語は不可

a. 張三は李四に逃げられた

b. \*Zhangsan<sub>1</sub> bei Lisi<sub>2</sub> taopao-le

Zhangsan BEI Lisi run away-PERF

‘Zhangsan was affected by Lisi’s running away’ \*张三被李四逃跑了

(2) 他動詞の間接受身文：日本語、中国語共に可

a. 張三は李四に頭を叩かれた

b. 李四は李四に財布を盗まれた

c. Zhangsan bei Lisi da-le naodai

Zhangsan BEI Lisi hit-PERF head

‘Zhangsan was affected by Lisi’s hitting his head’ 张三被李四打了脑袋

d. Zhangsan bei Lisi tou-le qianbao

Zhangsan BEI Lisi steal-PERF purse

‘Zhangsan was affected by Lisi’s stealing his purse’ 张三被李四偷了钱包

しかしながら、中国語においては、(3)に示したように、他動詞であっても間接受身文が容認されにくい、あるいは認可されない場合がある。これとは対照的に、対応する日本語は容認可能である。

- (3) a. ??Zhangsan bei Lisi sha-le fu qin  
 Zhangsan BEI Lisi kill-PERF father  
 ‘Zhangsan was affected by Lisi’s killing his father’  
 ??张三被李四杀了父亲  
 「張三被李四に父親を殺された」
- b. ??Zhangsan bei Lisi ti-le chong wu  
 Zhangsan BEI Lisi kick-PERF pet  
 ‘Zhangsan was affected by Lisi’s kicking his pet’  
 ??张三被李四踢了宠物  
 「張三が李四にペットを蹴られた」
- c. \*Zhangsan bei Lisi piping-le lun wen  
 Zhangsan BEI Lisi criticize-PERF paper  
 ‘Zhangsan was affected by Lisi’s criticising his paper’  
 \*张三被李四批评了论文  
 「張三が李四に論文を批判された」
- d. \*Zhangsan bei Lisi chi-le dianxin  
 Zhangsan BEI Lisi eat-PERF snack  
 ‘Zhangsan was affected by Lisi’s eating snacks’  
 张三被李四吃了点心  
 「張三が李四におやつを食べられた」

事象表現の統語構造には EventP という機能範疇が含まれていると仮定し (Harley 1995)、日本語も中国語も同じ EventP を持つが、各々の受身形態素が担う事象の限界性に関する素性 (+delimited)、意味役割付与の性質 (被害を示す  $\theta$  役割) の違いから上記の相違点を捉えることができることを示す。さらに、南琉球八重山方言 (竹富方言及び宮良方言) における間接受身文のデータから、間接受身文を認可するパターンが部分的に中国語と日本語の両言語に見られる性質を示し、その統語的振る舞いは受身形態素の意味役割付与の性質に関与している他動詞目的語 NP のタイプの階層性の違いに由来すると主張する。さらに、日本語における使役文と間接受身文は同じ事象構造を持ち、その違いが EventP の主要部に指定されている事象のタイプを決定する統語素性及び意味役割の性質の違いに還元できることを示唆し、EventP を仮定することの意義を論じる。

キーワード：間接受身文、EventP、限界性、被害受身、南琉球八重山方言、使役文